

第158回 青森県立図書館協議会 会議結果

1 日時・場所

平成29年11月20日（月） 13:30～15:20

青森市荒川字藤戸119-7 青森県立図書館 4階 研修室

2 出席者

《協議会委員》 敬称略 8名

西山 康巳 幸山 朋人 前田 敏子 若佐谷 昭人

斉藤 光政 瀧口 孝之 生島 美和 小笠原 秀樹

《図書館》

佐藤 宰（図書館長） 外9名

3 会議の概要

- (1) 図書館長あいさつ
- (2) 委員及び県立図書館・近代文学館職員の紹介
- (3) 案件
 - ① 平成28年度組織目標に対する評価結果
 - ② 短期行動指針（行動計画）の進捗報告
 - ③ その他

委員の主な意見・要望等

案件（１） 平成２８年度組織目標に対する評価結果

（資料の収集・保存・提供について）

委員

「資料の多様化への対応に努めます」とあるが、電子資料の収集をどこまでやれば満足した状態になるのかと正直思っている。自分も学校関係者であるが、学校現場ではICT化が非常に話題となっている。それをどう進めていけば良いか正に試行錯誤の状況であり、県立図書館のこういったところを見せて頂いて、我々の事業に活かしていきたい。連携できるところは連携し、情報も頂ければと思っている。

（資料収集・保存（近代文学館）について）

委員

寺山修司の本になっていないエッセー（近代文学館に寄贈されたシチズン社内報に掲載されたもの）があるということだが、まとめて何か出す予定はあるか。

県立図書館

頂いた雑誌等で全巻揃っている訳では無いため、今のところ当館では出す予定はない。

委員

もし出すということであれば、著作権の関係もあり、雑誌等沢山分かれてもいるので確認が大変ということか。

県立図書館

確認は大変である。

（全般、資料収集・保存（近代文学館）、資料の展示、文学活動の環境づくりについて）

委員

運営方針に基づいて組織目標を分析し、成果と課題としてPDCAを回しながら自己評

働をし、その中で職員が次ぎにどうしていくのかを振り返るというプロセスは非常に素晴らしい。これがたたき台となって今後展開されていくことを期待している。

数値目標を掲げることとはとても大切だと思うが、今後是非入れて頂きたいのは、利用者の視点や声、市町村職員へのアンケート等をこの中に反映させてくると、より次に繋がってくるのではないかと思う。

また、青森県は沢山の文学者を出しているが、その作家が書いた本を読んだことがあまりないという声を学生や住民から聴いている。作家を知らせると言うこともそうだが、近代文学館は図書館の2階にあって連携しやすい状況にあるので、作品を味わうというところまで繋がってくるような事業を図書館と連携しながら考えたら良いのではないか。

県立図書館

文学館と図書館の連携だが、展示という形で何回か連携したことはあるが突っ込んだ形での連携は今までやったことはない。これについては、委員から頂いた宿題として今後検討していきたい。

(関係機関との連携・協力について)

委員

今の学生は活字に興味を示さないというが、大学側として利用指導の仕方はどのように行っているのか。

また、大学ではインターネットをどのように使って県立図書館との繋がりを持っているものか。

委員

図書館の利用の仕方に関しては、文献検索や研究を進める上で必ず必要となってくるので、一年の基礎練習の頃から叩き込んでいくし、大学図書館もあるので、授業の演習の中で図書館を活用している。

県立図書館とはネットワークを組んでおり、大学に所蔵していない場合にはお願い出来ることを伝えてはいるが、本学の場合は、隣の弘前大学の図書館のほうが利便性が高くそちらを使うことが多い。

県立図書館

実際の学生の利用状況について、各大学ではガイダンスの中で情報検索の指導をかなり行っている。文献を複写で取り寄せたり、相互貸借で他県から借り受けたりのが活用がここ数年非常に増えており、今後ますますこのような形で利用されていくのではないか。

県立図書館としても大学図書館へ出向いて、県立図書館のPRをしながら利用方法をガイダンスできればと考えている。

案件（２） 短期行動指針の進捗状況について

（「市町村立図書館活動のモデルとなる「元気な図書館」が２館育つ」について）

委員

平成２８年度に県内全ての公共図書館を訪問し、実態を把握したとあるが、この状況はどのような状況か公表できるものか、できないものか。

県立図書館

県内の図書館の状況はあまり芳しくない。設置数だけから見てもまだ５７％、４０市町村中２３の市町村にしか図書館がない。また、町村の多くは公民館図書室はあるが殆ど資料費もない状態である。今までは自治体毎にブロックがかかり、他の住民には貸出をしていなかったが、最近、圏域の住民であればどこの市町村の図書館でも使えるようになってきた。県内では西北・上北・三八・下北がそういう状態であり、中南もそのような方向で進むのではないかと考えている。

県立図書館としては、いずれ、県内に住んでいる方であれば、県内どこの図書館でも使えるようになって欲しいと考えているが、今のところ住んでいる場所によってサービスの開きは大きい状況にある。

委員

以前、弘前で本を借りようとしたところ貸し出しできないと言われたが、この前弘前に住んでいる方から、弘前市立図書館では指定管理者になってからは、他市町村の人も借りられるようになりましたとの話を聞き、いろんなところでこのようなサービスが広がって欲しいと思っている。

（「使えるデジタル郷土資料を作成し、デジタル資料の認知・活用が広がる」について）

委員

自分のところの歴史資料室では、市史編纂事業として郷土資料と歴史資料を集めてきたが、それをどうやって市民へ還元するかということで、デジタルアーカイブを考えている。アーカイブではいつ作成された資料なのか最低限必要だと私は認識しているが、県立図書館のデジタルアーカイブ資料には無いものがある。無い場合はそれをどのように調査研究に役立たせるのか、県立図書館の考えを伺いたい。

県立図書館

１２月の蔵書点検明けにデジタルアーカイブのリニューアルを予定しているが、その中で、これは何時のどういう資料なのかという書誌情報をプラスしてお見せできるようにし

ている。ただ、点数的にはまだまだ少ないため、徐々に増やしていきたいと考えている。

目指す方向性としては、古典的な資料に限らず、現代的な資料も含めてふるさと青森のことが分かる多様なジャンルのデジタルアーカイブにしたい。業者が開発したものを試しに使ったりもしてみたが、じっくりくるものはないため、自分たちで試行錯誤でやっている状況である。

何年か先には市町村でも動きが出てくると思うので、皆さんの開発のお役に立てるようにして行きたい。

(「SNSの有効利用で、あおり文学の新たな関心層が発掘・拡大される」について)

委員

非常に分析されていて良いと思うし、色々チャレンジすることは重要だと思う。若者にターゲットを置くとすると、今は本当に多様化してきている。フェースブックだけでなく使っている媒体がツイッターであったり、インスタグラムだったり写真を見せた方が訴える力がある。色々なチャレンジを継続しないと、PDCAのCAには行かないと思う。

ホームページにフェースブックのページを窓のような形で更新状態を見せるやり方がある。ホームページを経由して検索する方が増えてきているので、直接フェースブックにこだわらず、そういったところからも積極的に情報を取るように検討されては如何か。

県立図書館

少しずつ進めて行きたい。興味があって積極的にやる職員が少ないので、手探りでやっているのが正直なところである。

委員

新聞もまったく同じ問題を抱えていて、若い人にアクセスをしてもらうために色々試行錯誤でやっているが、具体的に数字にどう結びついているのか見えてこない。

色々やってみなければ出てこない。

県立図書館

色々試しながら幾つかやってみて、こういう状態を目指してやった結果、どのようになったかをしっかり見ていこうと思う。失敗したら何故失敗したのかを意識しながらチャレンジしていこうと思う。

(「学校司書支援により学校司書の有用性が明らかになる」について)

委員

学校司書いわゆるサポーターだが、県立高校の学校図書館サポーターに携わっている管

理職を含む一般の先生方から話を聞くが、このサポーターはかなり問題があるのではないか。一つは配置されているのは各地区の進学トップ校に限られていること。もう一つは複数校へ掛け持ちさせないというのは如何なものか。という意見が集まっている。これを改善していかなければ学校図書館としてのメリットは少ないと考える。

私が勤務する学校では、今年学校図書館を県立図書館の協力を得て完全リニューアルすることに着手した。目標としたのは高校生がものを調べる手段・方法を学べ、また、そのような資料のある図書館である。

館長から市町村図書館は芳しくない状況だと説明があったが、実は学校図書館も同じで、青森県の状況は東北6県でも正直に言えないくらいである。各方面が連携しながら学校図書館をなんとか生き残りというか再生させる道があるのではないかと考えている。これからも個人的には頑張りたいと思っている。

平成 2 8 年度組織目標に対する評価結果

平成 2 9 年 1 1 月 2 0 日

青森県立図書館・青森県近代文学館運営方針

1 青森県立図書館運営方針

青森県立図書館は、図書、記録等の資料及び情報を収集し、保存して、県民の利用に供し、市町村立図書館等を支援し、関係機関との連携・協力を進め、県民の学習活動、調査研究、読書活動等を支援するとともに、地域を支える情報拠点として地域の課題解決を支援し、本県の発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、図書館サービスの充実に努めます。

(1) 資料の収集・保存・提供

県民が必要とする資料を計画的、体系的に収集し、整理・保存し、利用に供します。

資料の収集に当たっては、地域の課題解決に資する資料、郷土資料及び本県の行政資料の収集に努めます。

また、視聴覚資料、電子資料の収集等、資料の多様化への対応に努めます。

(2) 利用者・県民へのサービス

県民の学習活動等を支援するため、オンライン貸出等の貸出サービス、レファレンスサービス等の情報サービス、地域の課題に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス、学習機会の提供、ボランティア活動の機会の提供等を行います。

(3) 市町村図書館等への支援

県民が、県内どこに住んでいても、充実した図書館サービスを受けることができるよう、市町村立図書館及び公民館図書室等に対し、資料の貸出、図書館職員研修の実施等の支援を行います。

また、県内の公立図書館等の資料の横断検索、相互貸借等を行うための青森県図書館情報ネットワークシステムを運用するなど、県立図書館、市町村立図書館及び公民館図書室等の相互の連携・協力を進めます。

(4) 子どもの読書活動の支援

子どもの読書活動を支援するため、おはなし会の開催、読み聞かせ活動の支援、児童生徒用図書セットの貸出、学校図書館の運営の支援等を行います。

(5) 関係機関との連携・協力

県民の学習活動等の支援を充実するため、また、地域の課題解決を支援するため、国立国会図書館、他の都道府県立図書館、大学図書館、学校、社会教育施設、行政機関、調査研究施設、民間団体等との連携・協力を進めます。

2 青森県近代文学館運営方針

青森県近代文学館は、明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家の文学資料を幅広く収集し、その保存を図るとともに、広く一般に公開展示し、文学活動の環境づくりを進め、創造性豊かな本県文化の継承と発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、文学館活動の充実に努めます。

(1) 資料の収集・保存

明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家を中心に、図書、雑誌、原稿、書簡、書画及び遺品等の資料を総合的に収集し、体系的に整備・保存します。

(2) 資料の展示

青森県を代表する13人の作家を中心に、本県出身及びゆかりの作家の多様な資料を常設展示するとともに、テーマ別の企画展を開催し、青森県の近代文学に関する県民の理解を深めます。

(3) 文学活動の環境づくり

他の文学館、文学団体及び学校等との連携を深めながら、多様な普及・啓発活動、情報提供活動を展開することで、県民の文学活動の環境づくりを進めます。

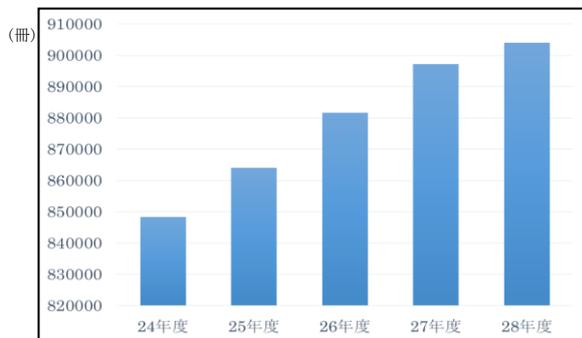
組織目標	(1) 資料の収集・保存・提供
組織目標設定の理由	県民の学習活動等を支援するため、県民が必要とする資料を計画的、体系的に収集し、整理・保存し、利用に供する。
担当課・室	奉仕課

組織目標達成に向けての留意事項

- ① 様々な情報を確認しながら、計画的、体系的に図書館資料を収集・整理・保存する。
- ② 地域の課題解決に資する資料、郷土資料及び本県の行政資料の収集に努める。
- ③ 視聴覚資料、電子資料の収集等、資料の多様化への対応に努める。

目標値	本館資料所蔵数 (平成27年度実績 897,252点) 目標 913,000点 実績 904,065点
------------	---

利用資料数の推移及び収集した視聴覚資料



本館資料所蔵数の推移



郷土関係で収集した視聴覚資料(DVDとCD)

成果と課題	今後の取組の方向性
① 出版情報の収集に努め、当館資料収集基本方針などにに基づき、16,384点の図書館資料を収集・整理・保存し、利用に供した。(過去5カ年平均の収集数は17,300点)	引き続き情報収集に努め、県民が必要とする図書館資料を積極的に収集するとともに、整理・保存に努める。 また、紙媒体以外に視聴覚資料、電子資料などの資料収集にも努め、利用に供していく。 なお、本館資料所蔵数が目標値を下回った要因は、旅行ガイドブックなどの資料を除籍したことによる。 (除籍点数9,528点;汚破損等によるものも、含む。平成28年度を除く過去5ケ年の平均除籍点数は637点)
② 行政機関や教育機関等へ出版状況の調査や寄贈の依頼を行うとともに、新聞記事などによる情報収集を行い、地域の課題解決に資する資料や郷土資料及び本県の行政関連の資料について3,217点収集した。(過去5カ年平均の収集数は3,200点)	
③ 郷土関係のDVDやCD及び地方新聞デジタル版などの視聴覚資料などを、322点収集をした。	

組織目標	(2) 利用者・県民へのサービス
組織目標設定の理由	県民の学習活動等を支援するため、オンライン貸出等の貸出サービス、レファレンスサービス等の情報サービス、地域の課題解決に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス、学習機会の提供、ボランティア活動の機会の提供等を行う。
担当課・室	奉仕課

組織目標達成に向けての留意事項

- ① 当館の図書資料を市町村立図書館等でも借受できるオンライン貸出サービスや遠隔地返却サービスなどのPRに努め、利用の増を図る。
- ② レファレンスサービスを身近に利用してもらうため、広報誌やホームページを活用し、レファレンス情報の提供に努める。
- ③ より一層県民が利用しやすいよう利用者サービスの向上に努め、利用者数や貸出冊数の増を図る。
- ④ より一層来館者が閲覧しやすいよう資料の配架や展示に工夫を凝らし、ボランティアの方々の協力をいただきながら、図書館サービスの充実に努め、入館者の増を図る。

目標値	利用資料数 (平成27年度実績 280,571点)	レファレンス件数 (平成27年度実績 11,176件)
	目標 290,000点	目標 11,100件
	実績 259,532点	実績 10,283件

インターネット端末と参考郷土室内「最初の一手コーナー」



インターネット端末席 (左手)
右手前は「県立図書館情報コーナー」



参考郷土室内
「最初の一手コーナー」

成果と課題	今後の取組の方向性
① ホームページを更新し、遠隔地に居住するオンライン貸出サービス等の利用が、自らホームページ上で貸出期間の延長手続きを行うことができるようになり利便性が向上した。	<p>引き続き県民の学習活動等を支援するため、各種利用者サービスに努め、地域の課題解決に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス等に努める。</p> <p>なお、利用資料数及びレファレンス件数が目標値を下回った主な要因については、システム更新のための休館により、平成27年度に比べ、開館日数が21日間少なかったことによる減少である。</p> <p>(平成27年度開館日数 338日 平成28年度開館日数 317日)</p>
② 参考郷土室において、調べものに良く利用される基本的な事典類や年鑑、郷土資料を選び、「最初の一手コーナー」として設置し、図書館だよりで、同排架資料を用いたレファレンス事例を紹介するなど、資料をより使いやすく、身近に感じてもらい、学習活動等の支援となるような資料・情報提供に努めた。	
③ よくある質問等をまとめた一般閲覧室Q&Aを作成し、掲示するとともに手に取れるようにした他、関連機関と連携し、リーフレットと貸出できる資料を並べた子育てコーナーとがんコーナーを設置した。	
④ カウンター周りを中心としてリニューアルを行い、インターネット端末、デジタル資料用端末、電源供給席等を集中的に配置し、情報検索コーナーとした他、新たにキャレル席を設けた。	

組織目標	(3) 市町村立図書館等への支援
組織目標設定の理由	<p>県民が、県内どこに住んでいても、充実した図書館サービスを受けることができるよう、市町村立図書館及び公民館図書室等に対し、資料の貸出、図書館職員研修の実施等の支援を行う。</p> <p>また、県内の公立図書館等の資料の横断検索、相互貸借等を行うための青森県図書館情報ネットワークシステムを運用するなど、県立図書館、市町村立図書館及び公民館図書室等の相互の連携・協力を進める。</p>
担当課・室	企画支援課

組織目標達成に向けての留意事項

- ① 市町村立図書館等における図書館活動を支援するため、協力用図書の充実を図り、一括貸出冊数の増を図る。
- ② 市町村立図書館等職員の資質の向上を図るため、職員研修を充実させる。
- ③ 市町村立図書館等に対し青森県図書館情報ネットワークシステムの効果的な活用を促し、県立図書館所蔵資料の貸出（相互貸借）冊数の増を図る。
- ④ 青森県図書館情報ネットワークシステムの情報交換機能を利用し、参加館相互の様々な図書館活動の情報発信・情報交換を行う。
- ⑤ 市町村立図書館活動の活性化を図るため、訪問、電話相談等により助言を行う。

目標値	市町村等への一括貸出冊数 (H27実績 29,348冊)	目標 30,500冊 実績 28,008冊
------------	---------------------------------	--------------------------

市町村訪問及び初任者研修の様子



黒石ほるぷ子ども館での巡回訪問



実務研修

成果と課題	今後の取組の方向性
① システム更新による休館中は一括貸出の対応も休止していたことから、協力用図書の貸出冊数は減少した。	協力用図書を利用した魅力ある書架づくりの提案や、新鮮な図書を並べるスペース確保に向けた助言を行うなど利用の促進を図る。
② 初任者研修（第1～3回）及び実務研修を開催し、市町村図書館・公民館職員の資質の向上を図っている。しかし、職員数が少ないため、研修に出席させることができない状況にある館が少なくない。	<p>市町村立図書館等職員の更なる資質向上のため、取り上げるテーマを図書館界で話題になっている事柄や実務に即した内容にするなどし、充実に努める。</p> <p>職員数が少ないため研修への参加が難しい状況に対しては、負担軽減となるよう地区研修会の開催を検討する。</p>
③、④ システム更新により相互貸借もサービスを休止したことから、県立図書館から市町村立図書館等への相互貸借による貸出冊数は減少（27年度 5,021冊→28年度 4,791冊）した。	蔵書データを公開している県内市町村立図書館等及び大学等図書館を一括して検索することができる「横断検索」への新たな参加館を増やし、ネットワークシステムの安定的な運用と充実を図る。
⑤ 県内すべての公共図書館の中心館（23館）を訪問し、各館の実態や課題の把握を行うと共に、必要に応じた助言を行ない、市町村立図書館等が相談しやすい関係の構築に努めた。	訪問により把握した各館の状況をもとに、更なる支援を必要とする図書館等へ個別に訪問したり、電話等で随時相談に応じていく。

組織目標	(4) 子どもの読書活動の支援	
組織目標設定の理由	子どもの読書活動を支援するため、おはなし会の開催、読み聞かせ活動の支援、図書セットの貸出、学校図書館の運営の支援等を行う。	
担当課・室	奉仕課、企画支援課	
組織目標達成に向けての留意事項		
①	子どもの読書活動を支援するために、子どもが進んで読書に親しむ機会を提供するとともに、積極的な広報活動に努める。	
②	子どもの読書活動を推進するため、市町村立図書館等の協力の下「市町村ブロック内巡回一括貸出」、「テーマ別図書セット貸出サービス」などを行う。	
③	小・中・県立学校の学校図書館を訪問し、図書の選書・分類・配架などの相談に応じ助言を行うとともに図書セットの充実・活用促進を図る。	
④	学校図書館職員の資質の向上を図るため、研修を充実させる。	
目標値	セット貸出冊数 (H27実績 12,210冊)	目標 12,500冊 実績 12,609冊
おはなし会・学校図書館訪問の様子		
		
「知るしるする探検隊」の様子		八戸市立長者小中学校での研修の様子
成果と課題		今後の取組の方向性
①	毎月のおはなし会に加え、これまで行ってきた科学おはなし会から、科学だけではなく、スポーツや身近なお仕事の人たちとの交流等、更に多分野にわたる事柄を取り上げ、子ども達と日常の不思議に迫ることのできる「おしえて先生！知るしるする探検隊」を実施。子どもの読書活動の支援を行った。	引き続き、おはなし会を実施するとともに、これまで行ってきた科学おはなし会から、科学だけではなく、スポーツや身近なお仕事の人たちとの交流等、更に多分野にわたる事柄を取り上げ、新たなプログラムを提供するとともに、子ども達が様々な体験から本に親しめるよう、読書活動の支援を行っていく。
②	28年度より新たにブックトークセットを用意し、更なる「子どもの読書活動推進」を図った。小学校向けのセットは希望が多いことから、セット数を増やしていく必要がある。	セット内容の充実のため、入替・更新作業を継続して実施するとともに、希望が多い小学校向けのセット数を増やし、更なる「子どもの読書活動推進」の充実を図る。
③	学校図書館アシスト事業として、各学校の要請に応え、28年度は47件の学校訪問を実施し、各学校に対してきめ細かな対応を行なった。 訪問に際しては、市町村立図書館等職員にも同席を促し、情報共有・情報交換を行なった結果、市町村立図書館等による学校図書館支援の取組みが増えてきた。	訪問校の近隣市町村立図書館等にも広く案内し、市町村立図書館等職員が学校図書館支援のノウハウを学ぶ研修機会とするなど、効率よく充実した支援体制の構築を目指す。
④	学校図書館職員が市町村立図書館等職員と一緒に研修を行ない、近隣の職員同士が意見交換できるプログラムを設定した。	学校訪問や電話等で学校図書館職員から寄せられる相談内容や事例紹介を研修プログラムの設定に反映させ、引き続き研修の充実を図る。

組織目標	(5) 関係機関との連携・協力
組織目標設定の理由	県民の学習活動等の支援を充実するため、また、地域の課題解決を支援するため、国立国会図書館、他の都道府県立図書館、大学図書館、学校、社会教育施設、行政機関、調査研究施設、民間団体等との連携・協力を進める。
担当課・室	企画支援課

組織目標達成に向けての留意事項

- ① 創業、起業等を支援する産業支援サービスの充実に資するため、図書オーダーメイドリストの提供、図書の貸出等を行う。
- ② 県職員の業務や政策立案を支援する行政支援サービスとして、配達による図書の貸出や、図書オーダーメイドリストの提供、集会室等の施設の提供等を行う。
- ③ 県内産業関連機関と連携しながら、双方向での情報・資料の提供や事業の共同開催等を推進する。
- ④ 広く県民の課題解決や学習を支援できるよう、県内大学等との連携・協力を進める。

目標値	産業支援・行政支援サービス図書 貸出点数 (H27 実績 342 冊)	目標 400 点 実績 400 点
-----	--	----------------------

産業支援サービス・行政支援サービスの様子

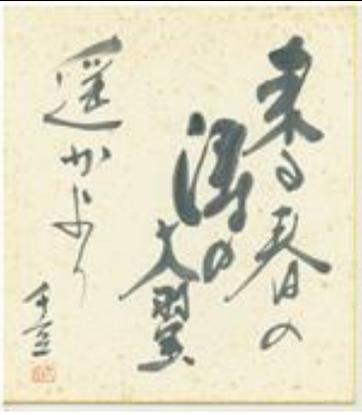


キャリア相談員養成研修での貸出



管理者入門研修での貸出

成果と課題	今後の取組の方向性
① 県庁関係課からの要請に応じ、産業支援・行政支援サービスを行った。参加者が興味関心を持つ分野の図書を図書リストとともに即座に提供できた。28年度より新たに県自治研修所と連携し、研修でのサービスを行った。県庁内にサービスが浸透しつつあり、要請が増加傾向にある。	産業支援・行政支援の要請に対して、引き続きサービスを行っていくとともに、県自治研修所との連携を強化し、研修内容に関連した図書や図書リストを提供することにより、サービスの充実に図る。
② 行政支援サービスのうち、県職員のデスクへ届ける貸出サービスは、毎年 50 冊程度の需要がある。また、集会室・研修室を県庁関係課へ貸出しており、28年度の利用件数は 151 件、利用者は 6,035 人であった。	引き続き、県職員の要求に応じ、デスクへの配達による図書の貸出を実施するとともに、施設提供を行っていく。
③ 県内産業関連機関との連携では、引き続き「ジョブカフェあおもり」主催の催しを当館内で行った。参加者向けに会場内に関連図書を展示し、閲覧室で貸出することにより、図書館の利用促進を図ることができた。	引き続き、県内産業関連機関（ジョブカフェあおもり、商工労働部地域産業課等）と連携して事業を行っていく。
④ これまでに、県内 14 大学中 13 大学と協定を締結しており、学生・教職員の利便性が向上したほか、県民の学習の支援につながっている。 「横断検索」への参加館を 11 大学から、協定を締結しているすべての大学に増やし、一度により多くの資料が検索可能となるよう利便性の向上を早期に実現することが課題である。	既に蔵書データを公開している青森大学を「横断検索」に加えるほか、蔵書データが未公開の東北女子大学に対して「横断検索」への参加条件となる公開に向け、引き続き働きかけを行う。

組織目標	(6) 資料収集・保存 (近代文学館)	
組織目標設定の理由	青森県の近代文学の拠点として、引き続き資料の収集・保存に努める必要がある。	
担当課・室	近代文学館	
組織目標達成に向けての留意事項		
① 常設展示している13人の作家の資料を中心に、資料の収集・保存に努める。		
② 特別展「青函を旅した文人たち」、「青森県俳句懇話会寄贈資料展」を開催するため、関係資料の収集に努める。		
目標値	資料所蔵数 (平成27年度実績 147,497点)	目標 150,000点
		実績 151,088点
28年度収集資料		
	青森県内での詠歌も収めた石川啄木の歌集『一握の砂』初版本 (古書店より購入)	
		成田千空色紙 (青森県俳句懇話会寄贈)
成果と課題		今後の取組の方向性
① 常設展示している13人の作家のうち寺山修司について、シチズン時計株式会社から単行本未収録のエッセイ「時計幻想館」・「時計の歴史」シリーズを掲載したPR誌「シチズンセールスニュース」計19冊分の寄贈があった。		今後も県ゆかりの作家関係者への取材や接触を通じて資料寄贈に繋げるとともに、地道な調査を継続し、13人の作家の資料及び企画展・特別展のテーマに関わる資料を古書店から見つけ出し購入していく。
② 島崎藤村、石川啄木、国木田独歩、三木露風、与謝野晶子ら青函を旅した文人たちの著書や作品掲載誌で、展示に直結するものを古書店経由で多数入手することができた。青森県俳句懇話会からは諸俳人の書画等636点の寄贈があった。		

組織目標	(7) 資料の展示 (近代文学館)	
組織目標設定の理由	所蔵資料の効果的な紹介を行うため、常設展における展示の工夫をするとともに、特別展・企画展を開催し、青森県の文学に対する県民の理解を深める。	
担当課・室	近代文学館	
組織目標達成に向けての留意事項		
① 夏の特別展は北海道新幹線開通を機に、「青函」をテーマとした「青函を旅した文人たち」を開催。春・冬の企画展では寄贈資料のお披露目的展示を開催。		
② 青森県を代表する13人の作家のうち、太宰治・石坂洋次郎・佐藤紅緑・福士幸次郎を特集する形で、常設展示の企画展化(エクステンド常設展示)をはかり、より新鮮みのある魅力的な展示を展開し、来館者の増加を図る。		
目標値	観覧者数 (常設展+特別・企画展) (平成27年度実績 33,062人)	目標 20,500人
		実績 22,534人
特別展「青函を旅した文人たち」		企画展「青森県俳句懇話会寄贈資料展」
		
成果と課題		今後の取組の方向性
① 特別展では、北海道新幹線開通の機をとらえ「青函を旅した文人たち」を開催。春・冬の企画展では寄贈資料のお披露目を図り、「三上強二寄贈資料展」、「青森県俳句懇話会寄贈資料展」を開催した。従来は年3回行っていた企画展を2回に削減したことにより、特別展・企画展の合計日数は27年度よりも78日少なくなり、観覧者数は8,254人とどまった(27年度13,604人)。		時宜を得たテーマにより魅力的な展示を構成するとともに、収集・保存してきた貴重資料を死蔵させないよう展示機会を模索することに努める。29年度は、メモリアルにちなみ「葛西善蔵生誕130年特別展」、企画展「没後80年菊谷栄展」を開催。また、収蔵資料を生かした企画展として「本の装い展」を開催する。
② 展示資料の意義を分かりやすく伝え、かつ展示に新鮮さを出すため、前年度に引き続き常設展示室で「エクステンド常設展示」を実施した。図書館全体のシステム更新の関係で開館日数が27年度よりも21日少なかったこともあり、常設展示室の観覧者数は、14,280人とどまった(27年度19,458人)。		28年度の経験を踏まえ、展示内容・方法に工夫を施し、より新鮮みと深みのある常設展を実現したい。29年度は「太宰治と今官一」「映画監督・川島雄三」を開催する。

組織目標	(8) 文学活動の環境づくり (近代文学館)	
組織目標設定の理由	広く県民に文学館の活動について情報を発信し、文学への理解を深める場と機会を提供する。	
担当課・室	近代文学館	
組織目標達成に向けての留意事項		
<p>① 特別展・企画展のテーマとゆかりのある地域の学校等でパネル展、出前講座を開催するなど、地域性を生かす形で普及・啓発活動を行う。他の観光イベントと積極的に協力し合って出来るだけ多くの人に見てもらおう機会を増やす。</p> <p>② 県民が文学に親しみ理解を深めるため、多様なメディアを活用して情報提供活動を展開する。</p>		
目標値	パネル展開催件数 (平成 27 年度実績 25 件)	目標 25 件
		実績 26 件
「青函を旅した文人たち」 パネル展		「児童文学者・鈴木喜代春」 パネル展
		
成果と課題		今後の取組の方向性
<p>① パネル展件数は目標値を1上回る26件だった。28年度はラインナップに新たに「青函を旅した文人たち」と「児童文学者・鈴木喜代春」のパネルを加えることができ、それぞれ青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、田舎館村役場と、ゆかりの深い場所での開催も実現できた。</p> <p>② 展示、イベントに関する情報を、機会ある毎に県内報道機関(新聞・テレビ・ラジオ)、複数(約30件)のイベント紹介WEBサイト等に提供するとともに、自館ホームページの情報更新を密に行った。</p>		<p>今後も積極的にパネル展開催を促し、本県文学への理解を深めるための啓発活動を行う。また、観光イベントに協力する形でパネル展を実施するなど、多くの方にパネル展を見てもらえる機会を積極的に開拓する。</p> <p>今後も、多様なメディアを活用して、情報提供活動を継続していく。またSNS(フェイスブック)による情報提供の方法を模索する。</p>

短期行動指針（行動計画）の進捗報告

平成 29 年 11 月 20 日

短期行動指針（行動計画）

1 行動指針（スローガン）

「県民のもっと近くへ ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」

2 重点行動事項

- ① 来館できなくても利用できるサービスを拡充しよう
(市町村図書館と協働で提供するサービスを開発しよう)
- ② ITの活用とデジタル化の促進で資料の見える化・使える化を進めよう
(特に地域資料のデジタル収集と見える化・使える化を進めよう)
- ③ 市町村図書館、学校図書館が元気になるためにできることをもっと進めていこう
- ④ 気軽に身近にあおもり文学を感じる機会を創っていこう

3 3カ年の行動目標・計画

(3年後のめざす姿：目標)

- ・すべての市町村立図書館で県立図書館を利用した活性化策が実施されている（奉仕課①・③）
- ・新たに相談業務を実施する市町村立図書館ができる（奉仕課①・③）
- ・使えるデジタル郷土資料を作成し、デジタル資料の認知・活用法が広がる（奉仕課②）
- ・市町村立図書館活動のモデルとなる「元気な図書館」が2館育つ（支援課③）
- ・学校司書支援により学校司書の有用性が明らかになる（支援課③）
- ・SNSの有効利用で、あおもり文学の新たな関心層が発掘・拡大される（文学館④）

4 留意事項

年度末の評価の観点は、何をしたかではなく、目標にどれだけ近づけたかである。

行動指針 (スローガン)	「県民のもっと近くへ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」
3年後の目指す姿 (目標)	<ul style="list-style-type: none"> すべての市町村立図書館で県立図書館を利用した活性化策が実施されている。 新たに相談事業を実施する市町村立図書館ができる。
担当課・室	奉 仕 課
29年度の 行動内容	<ul style="list-style-type: none"> 市町村向け提供コンテンツの開発 市町村立図書館等職員向けのコンテンツ紹介パンフレット作成

提供コンテンツと市町村立図書館等職員向けパンフレット



貸出用ディスプレイ
「クリスマス」



市町村立図書館等職員 向けパンフレット
「応援団宣言！」

29年度までの進捗状況	今後の取組の方向性
<p>下記支援プログラムの構築をすると共に、市町村立図書館等に利用してもらうための、案内パンフレット「応援団！宣言」を作成・配布した。</p> <p>このことによって、市町村立図書館でのプログラム活用が行われ、新たに相談事業に取り組む図書館ができるなど、県内図書館の活性化となった。</p>	<p>1 新たなコンテンツの開発に取り組み、更なるサービスの向上に努める。</p> <p>2 案内パンフレット「応援団！宣言」を活用した広報を、市町村立図書館職員の会議・研修等で行うことに加え、ネットで公開するなど、活用を推進することによって、県内の図書館活動を活性化する。</p>
<p>提供コンテンツの作成（～平成29年度前期）</p> <p>「記念日に新聞を贈りませんか」</p> <p>「展示応援団（展示コンテンツ）」 6点</p> <p>「ディスプレイ応援団」（児童室向けディスプレイ） 7点</p>	
<p>レファレンス支援プログラム</p> <p>市町村立図書館等において、図書館員としての経験が浅い職員であっても、住民からの相談を受け付け、対応ができるよう、利用者からの相談内容の聞き取りができ、当館へのレファレンスの協力依頼がしやすく、利用を促進できるような様式、連絡方法を企画・作成・提供した。</p> <p>平成29年度 前期実績</p> <p>青森市、つがる市、六ヶ所、黒石、五所川原市、田子町 ほか</p> <p>情報回答 7件</p> <p>資料複写 1件</p> <p>資料紹介 2件</p>	

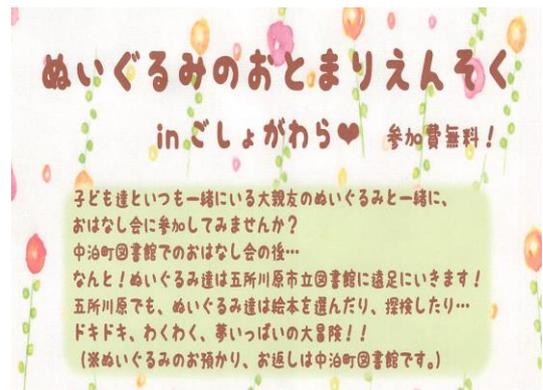
行動指針 (スローガン)	「県民のもっと近くへ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」													
3年後の目指す姿(目標)	使えるデジタル郷土資料を作成し、デジタル資料の認知・活用が広がる。													
担当課・室	奉 仕 課													
29年度の行動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料のデジタル化 ・青森県立図書館デジタルアーカイブのリニューアル 													
提供コンテンツ														
 <p data-bbox="528 1055 1066 1122"> 青森県立図書館デジタルアーカイブ公開資料 『大日本国東山道陸奥州駅路図』 </p>														
29年度までの進捗状況		今後の取組の方向性												
<p data-bbox="140 1265 895 1400"> 県立図書館が所蔵する古地図、文書類などの古典籍をデジタル化すると共に、「青森県立図書館デジタルアーカイブ」としてホームページに公開した(平成29年度前期までの公開点数:73点)。</p> <p data-bbox="140 1433 895 1534"> このことにより、遠隔地においても県立図書館の郷土資料を利用できるようになり、デジタル資料の認知・活用を推進することができた。</p> <p data-bbox="172 1568 821 1601"> 平成29年度前期のデジタルアーカイブ利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用回数 1766回(月平均 294回) ・利用者の地域別の割合 <table border="0" data-bbox="199 1668 438 1892"> <tr><td>青森県</td><td>23%</td></tr> <tr><td>東京都</td><td>18%</td></tr> <tr><td>神奈川県</td><td>6%</td></tr> <tr><td>北海道</td><td>6%</td></tr> <tr><td>大阪府</td><td>4%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>43%</td></tr> </table>		青森県	23%	東京都	18%	神奈川県	6%	北海道	6%	大阪府	4%	その他	43%	<p data-bbox="895 1265 1450 1400"> 引き続き郷土資料のデジタル化を進めるとともに、デジタル資料がより活用されるよう、デジタルアーカイブを定期的に更新し、公開するデジタル資料の数を増やしていく。</p>
青森県	23%													
東京都	18%													
神奈川県	6%													
北海道	6%													
大阪府	4%													
その他	43%													

行動指針 (スローガン)	「県民のもっと近くへ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」
3年後の目指す姿(目標)	市町村立図書館活動のモデルとなる「元気な図書館」が2館育つ
担当課・室	企画支援課
29年度の行動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村立図書館等の調査訪問等により、気軽に相談できるような関係の強化 ・「元気な図書館」候補となる図書館等の意見交換の場の設定と連携した取り組みの実施 ・市町村立図書館等の職員・サービス・資料・施設等の紹介内容をまとめたリーフレットの作成

調査訪問と「元気な図書館候補」の取り組み



市町村立図書館等調査訪問(上北地区)の様子



五所川原市立図書館、中泊町図書館による「ぬいぐるみのおとまりえんそく」チラシ

成果と課題	今後の取組の方向性
<p>① 28年度は県内すべての公共図書館(23館)を訪問し、各館の状況を把握できた。29年度は県内6地区で調査訪問を実施し、参加した図書館及び公民館の状況把握を行うとともに、よりよい図書館づくりのための意見交換を行うことにより、担当者等の意欲が向上し、専門性の強化が図られた。</p>	<p>各図書館等から聴取した重点的な取り組みや課題などと事後アンケートによる当館への要望等を加味しながら必要な支援を検討し、更なる訪問等により具体的、実践的な助言を行う。</p>
<p>② 28年度中に「元気な図書館」候補として次の1地域・1館を選定した。 (ア)五所川原市立図書館、つがる市立図書館、中泊町図書館3館による地域連携の取り組み (イ)八戸市立図書館が行う教育委員会との連携による学校支援と八戸市の「本のまち」に関する取り組み 29年度、(ア)については、各館が連絡を取り合いながら、一緒に事業を実施するなど連携が強化されてきているほか、(イ)については、学校図書館支援の取り組みが定着してきている。</p>	<p>(ア)五所川原市立図書館、つがる市立図書館、中泊町図書館3館による意見交換では、連携の方向性を確認し、情報交換や進捗状況の確認等を行っている。引き続き定期的に意見交換を行うとともに、具体的な取組みを着実に進めるため県内外の連携事例等の情報収集と提供を継続して行っていく。 (イ)八戸市立図書館については、幅広い世代の市民に対して本に親しむ機会を提供している他館等の有益な情報の提供に努め、必要に応じて支援を行うとともに、青森県図書館連絡協議会会報「絆」などを活用して取組みの情報発信を行う。</p>
<p>③28年度は15館の回答から、他館が参考にできる内容やリーフレットのデザインについてのアイディアが得られた。</p>	<p>29年度も各館へのフィードバックと合わせて再度調査を行い、30年度の完成を目指す。</p>

行動指針 (スローガン)	「県民のもっと近くへ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」
3年後の目指す姿 (目標)	学校司書支援により学校司書の有用性が明らかになる
担当課・室	企画支援課
29年度の 行動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員課・学校教育課に常に情報提供を求め、各校の状況を把握する。 ・「青森県学校図書館シンポジウム」で県内に学校図書館の役割・活性化等について問題提起する。

学校図書館アシスト事業プラスと青森県学校図書館シンポジウム



五所川原高校図書館（H29.6 訪問）



「青森県学校図書館シンポジウム」パネルトーク

成果と課題	今後の取組の方向性
<p>○平成28年6月に学校図書館サポーター研修を、平成29年5月に市町村立図書館等職員研修 初任者研修①を実施し、それぞれに学校図書館関係者の参加があった。</p> <p>○教職員課へ提出された各校の目標・成果や課題を情報共有するとともに、希望のあった2校に対して「学校図書館アシスト事業プラス」でこれまでに計4回の訪問を行った。</p> <p>○平成29年6月28日に開催された「学校図書館サポーター配置事業に係る会議」で、学校図書館サポーターが配置されたことで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの企画等、図書館機能の活性化が確認されている。 ・各校で生徒及び教員の利用数が増加し、好評を博している。 ・サポーター未配置校の一部から早期配置要望が示されている。 <p>という報告があった。</p> <p>これを受けて、次年度も掛け持ちなしで既配置校6校への配置を継続することとなった。</p> <p>○平成29年10月27日に「青森県学校図書館シンポジウム」を開催し、県立図書館職員や文部科学省職員、県内市町村職員が、学校司書の有用性について触れた発表とパネルトークを行った。このシンポジウムには、学校図書館職員や教育行政職員、市町村立図書館等職員等計148名の参加があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員課、学校教育課による学校図書館サポーター活用状況の効果・課題の整理及び配置校拡充に向けての方策検証について、情報共有と情報提供を行う。 ○要望があれば「学校図書館アシスト事業プラス」で訪問し、各校の状況に合わせた具体的な助言及び支援を行う。 ○次年度もシンポジウムを開催し、学校図書館運営に直接携わる学校職員だけではなく、整備等の施策を担う教育行政職員、技術的支援を行いうる公共図書館職員等、学校図書館を取り巻くすべての関係者が、基調講演や実践事例発表、パネルトーク等を通して、学校図書館の推進及び学校司書の有用性を考えるきっかけづくりを行う。

行動指針 (スローガン)	「県民のもっと近くへ～図書館活動の見える化・使える化を進めよう～」	
3年後の 目指す姿(目標)	SNSの有効利用で、あおり文学の新たな関心層が発掘・拡大される。	
担当課・室	近代文学館	
29年度の 行動内容	実際にSNSによる情報発信を試験的に実施し、発信すべき情報の内容・量、 発信の頻度等について検証する。	
29年度までの進捗状況		今後の取組の方向性
成果① 29年6月からSNSによる情報発信を試験的に 実施した。 若者層に興味をもってもらうため、「くまきち」 というキャラクターが、文学について話す設定 をとっている。	<ol style="list-style-type: none"> 1 「文学館フォロワー」は着実に増加している ので、情報発信を継続して実施する。 2 発信の頻度によって閲覧・リアクションが どのように変動するかについて分析し、発信 すべき情報の内容・量、発信の頻度等につ いて検証する。 	
		
成果② 10/18 現在の検証結果は以下の通り	<ul style="list-style-type: none"> ○投稿数34件に対し、「文学館フォロワー」は 115名。 ○ファンとして登録している人は122名（うち 4名は海外）、年代別では、45-54歳が36%と 最も高く、大学関係者・文学関係者が多い。 ○リーチ（閲覧）した人は1429名（うち46 名は海外）、年代別では、35-44歳が26%と最 も高く、次いで25-34歳が21%と高い。 ○これらのことから、文学好きの45-54歳の方々 がファンとなり、文学館SNSがターゲットと している若者世代は、登録はしていないものの、 多く閲覧していると分析できる。 	
<課題> 現在は、週に1～2回のペースで発信している。 特別展後に閲覧が減少しているため、企画展関 連の情報発信を続けながら、内容や発信頻度等 について検証を続ける必要がある。		